

令和 2 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立金塚小学校

令和3年3月

大阪市立金塚小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力の向上では、全国学力・学習状況調査の結果、25 年度と 30 年度の正答率を比べると国語 A 58.2⇒61 国語 B 50.6⇒41 算数 A 81.4⇒58 算数 B 62.0⇒44 となり、特に算数のポイントが下がっている。しかし、大阪市平均と比べて算数 A で 4%、算数 B で 5% の差であり、問題の難易度が変わっていることも考えられる。もう一つの目標としていた無答率は、国語 A 13.9⇒3.7 国語 B 14.9⇒3.0 算数 A 0.2⇒0.0 算数 B 4.6⇒3.1 で、全国平均や大阪市平均と比べても少ない数値になっている。

児童の学力の傾向としては、国語、算数とも漢字や計算などの基礎学力とともに、文章の読解や作文などの力が足りないため、今後も継続して学力向上に向けて取り組んでいく必要がある。

道徳心・社会性の育成の視点では、道徳の時間や学級活動等で、体験的な学習や活動を工夫したり、グループ学習を取り入れたりして、集団行動を重視してきた。また、「やさしさウィーク」や「マナーアップウィーク」を設定し、相手のことを考えて行動したり、ルール・マナーを守って行動したりすることができるよう指導してきた。児童アンケートの結果は、「進んであいさつしたい」については「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせて 90.1%、また「学校のきまりや交通ルールをしっかり守ろうと思う」については「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせて 95.7% だった。「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」について「よくあてはまる」で 80% 以上にするという目標については、「よくあてはまる」で 46.2%、「あてはまる」を入れて 86.3% であった。全体的には高い傾向にあるが数値的には達成できていない。

健康・体力の保持・増進の視点では、運動場で遊んだり、体育の時間は進んで運動したりしようと思う」について「よくあてはまる」が 58.8% で目標の 70% 以上に達しなかったが、「あてはまる」も入れると 89.0% となった。

50m走やシャトルランの記録を上げ、体力合計点で全国や大阪市の平均を上回るようにするとの目標に対し、50m走では、女子、男子とも約 0.1 秒下回ったが、シャトルランでは、女子、男子とも 6~7 ポイント大阪市を上回った。

「手洗いうがい」「けがの予防」「食育」等、健康・安全に関わるアンケートで肯定的な意見の割合を前年度より上回るようにする目標については 25 年度から 91%⇒95%⇒97%

⇒96%⇒96%⇒93.6%と少し下がった。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～令和2年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において不登校の児童の割合を、毎年前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率7.5割以下の児童を、いずれの学年も平成28年度より、10ポイント減少させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率7.5割以上の児童を、いずれの学年も平成28年度より、10ポイント増加させる。
- 令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成28年度より増加させる。
- 課題である50m走の記録を、平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平成28年度より0.5ポイント向上させる。

【その他】

※令和2年度の新学習指導要領の施行に向けて、「特別の教科 道徳」「外国語」の取り組みを重ねていく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 **(R1 100%⇒ R2 100%) →**
- 令和2年度の小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。 **(R1 0%⇒ R2 0%) →**

○令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。



学校園の年度目標

※令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

※令和2年度の児童アンケート「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。

(R1 90.2%⇒ R2 90.1%) →

※令和2年度の校内調査において、暴力行為を数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。

(R1 0%⇒ R2 0%) →

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より、3ポイント増加させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

○令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走の平均記録を、前年度より0.2ポイント向上させる。

(R1 9.5ポイント⇒ R2 9.2ポイント) ↑

学校園の年度目標

※令和2年度の児童アンケート「勉強や話し合いの時、みんなの前で自分の意見を発表することができます」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。

(R1 73.1%⇒ R2 79.0%) ↑

※令和2年度の児童アンケート「学校での勉強は、わかりやすく楽しい」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。

(R1 79.6%⇒ R2 83.6%) ↑

※令和2年度の児童アンケート「休み時間には運動場で遊び、体育の授業はしっかり運動した」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

(R1 87.7%⇒ R2 90.6%) ↑

※令和2年度の保護者アンケート「学校は手洗い・うがい、食育等子どもの健康安全に積極的に取り組んでいる」の項目について「よく当てはまる（当てはまる）と答える保護者の割合を95%以上にする。

(R1 98.0%⇒ R2 98.4%) ↑

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標の1つ目、学校で認知したいじめについては、本年度も解消した割合が100%になり、目標を達成できた。いじめアンケート等を活用し早期発見に努め、対応してきた結果と言える。全市共通目標の2つ目、校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目については、肯定的回答をした児童の割合は97.0%と目標を上回ることができた。学校生活に様々な制約がある中、子どもたちは安心して学校生活が送ることができている。それは「金塚プライド」という共通の教育方針のもと、全教職員が年度当初より一丸となって取り組んできた成果と言える。その結果、全市共通目標の3つめの暴力行為を複数回行う児童も前年度に引き続き目標を達成できた。全市共通目標の4つめの不登校の児童については目標を達成できなかったが、こどもサポートネットなど関係諸機関と連携しながら取り組んでいる。また、ケース会議や研修会を実施し、全教職員で課題を共有し、解決に向けて取り組んでいる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力向上について、本校独自の基礎学力テストの結果を見ると、国語(R1 8.5 ポイント⇒ R2 9.2 ポイント) 算数(R1 8.7 ポイント⇒ R2 9.4 ポイント)ともに向上している。令和2年度は、教育課程の履修が最優先だったが、日々の教育実践の積み重ねと、スキルアップクラスなどの本校独自の取り組みの成果と言える。

体力向上について、指標の50m走については目標を達成することができた。令和元年度に引き続き、本年度も研究教科を体育科とし、継続して児童の体力向上のために取り組んだ。コロナ禍にありながらも、感染症防止対策を万全にし、工夫して体育の授業を進めた結果、児童アンケートの「休み時間は進んで運動場で遊んだり、体育の時間は進んで運動したりしようと思う」に肯定的回答をした児童は90.1%と高い割合を示している。

学校園目標の学校は手洗い・うがい、食育等子どもの健康安全に積極的に取り組んでいるについては、目標を達成できた。学校内だけでなく、様々な機会をとらえて保護者・地域に啓発しともに取り組んできた成果であると言える。

(様式2)

大阪市立金塚小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○令和2年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和2年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>※令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>※令和2年度の児童アンケート「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>※令和2年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を毎年、前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号2 施策名 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳の授業を通して、児童がよりよく生きるために道徳性を養うことができる授業を充実させる。</p>	B
<p>指標</p> <p>全学年「道徳ノート」を活用し、自分の考えをまとめ、交流できるようにする。</p>	
<p>取組内容②【施策番号1 施策名 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>たてわり班（わくわくグループ）を編成し、異学年交流をすすめ、高学年としての自覚を持てるよう活動内容の充実に努める。</p>	A
指標	

実施を工夫しながら異学年交流を行う。	
取組内容③【施策番号1 施策名 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校のきまりを守り、あいさつができるようにマナーアップウィークを実施する。また、相手の気持ちを考えられる子どもを育てるために、やさしさウィークを実施する。	A
指標 各学期に1回実施し、「自分からあいさつする」の割合を95%以上にする。	
取組内容④【施策番号3 施策名 道徳心・社会性の育成】 外国の国籍やルーツを持つ児童を把握し、指導に生かしていく。	B
指標 教職員間で、指導や対応についての共通理解を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①「道徳ノート」を活用しながら、自分の考えをまとめたり、学級で交流したりしている。教材に対しては、児童は一生懸命取り組んでいる。
②毎週の児童集会や、全校遠足、わくわくピカタイム、わくわく遊ぼうウィーク等の活動を通して、高学年を中心になって異学年交流を行うことができた。また、異学年交流以外にも、6年生の係活動で低学年のお助けや読み聞かせをした。6年生としてのリーダーとしての意識も高まった。
③マナーアップウィークでの取り組みを中心に、日頃から挨拶ができるよう指導してきた。教職員から繰り返し挨拶することによって、来校者に対しても含めて、児童からも挨拶ができるようになってきている。 (児童アンケートの肯定的解答は、97.7%) また、やさしさウィークでの取り組み等を通して、相手の気持ちを考えられる態度が育ってきている。
④外国籍やルーツを持つ児童の資料をまとめ、教職員で共通理解し、指導している最中である。1年生では、ゲストティーチャーに4回来ていただき、国際交流の授業をしていただいたり、本校中国籍の児童（4名）が集い、交流会を実施したりした。
次年度への改善点
①道徳科で学習したことを日々の学校生活で生かしていくよう、引き続き指導していく。また、教材に応じた発問の工夫と、「道徳ノート」の活用の仕方を再検討する必要がある。
②今後も高学年のリーダーシップを育てていく取り組みを計画し、実践していく。
③今後も教職員から積極的に挨拶をしたり、挨拶ができる児童を褒めたりすることで、挨拶のよさを広めていくよう指導していく。具体的に、場面ごとの挨拶（職員室への入室、来校者、学校のものを返却する時、等）を指導していく。また、日頃から相手の気持ちを考えての行動や発言ができるよう指導していく。
④外国籍やルーツを持つ児童の資料を毎学期ごとに見直し、データを更新していく。「生活指導の共有事項」等を活用して、取り組みや児童の様子を全体化していく。

大阪市立金塚小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より、3ポイント増加させる。</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走の平均記録を、前年度より0.2ポイント向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>※令和2年度の児童アンケート「勉強や話し合いの時、みんなの前で自分の意見を発表することができた」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>※令和2年度の児童アンケート「学校での勉強は、わかりやすく楽しい」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>※令和2年度の児童アンケート「休み時間には運動場で遊び、体育の授業はしっかり運動した」の項目について「よく当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>※令和2年度の保護者アンケート「学校は手洗い・うがい、食育等子どもの健康安全に積極的に取り組んでいる」の項目について「よく当てはまる（当てはまる）と答える保護者の割合を95%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号5 施策名 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>国語科「話すこと・聞くこと」への重点的指導をはじめとして、全教科での授業や学級活動等、学校での活動全般において自分の考えや思いを表現できるようにする。また、相手の意見を聞いて尊重することができるようとする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアトークやトリオ等を取り入れた授業や活動を行い、個人で発表する機会を週1回以上行う。 	

<ul style="list-style-type: none"> 聞くことに関する取り組みを週1回以上行う。(取り組み内容は学年・学級の実態に応じて考える) <p>取組内容②【施策番号5 施策名 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎学力の定着を図るため、習熟度別少人数授業やスキルアップクラスの取り組みを進める。</p>	
指標 基礎学力定着テスト（金塚小オリジナル）を年2回実施し、2回目のテストの正答率が80%未満の児童を減らす。	B
<p>取組内容③【施策番号6 施策名 國際社会において生き抜く力の育成】 ICT器機、具体物や写真、動画等を活用し、基礎的・基本的な内容や発展的な内容についての個々の理解度を高める。</p>	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ICT器機を使用した授業を週4回以上行う。 ICT器機の校内研修を年2回以上実施する。 	
<p>取組内容④【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の授業の中で、走る活動を積極的に取り入れる。50m走の記録を年2回とり、学習カード等を活用し、個々にめあてを意識させることで記録の向上を図る。 休み時間に実施する運動委員会の体力向上に関する取り組みを年2回以上行う。</p>	A
指標 50m走の記録を年2回計測し、前回の記録を上回った児童の割合を80%以上にする。	
<p>取組内容⑤【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 進んで外遊びすることを月目標に設定する。学級遊びや運動委員会による遊びの紹介、なわとび、駆け足週間等を活用し、楽しみながら体力を向上させるようにする。</p>	A
指標 児童アンケート「休み時間には運動場で遊び、体育の授業はしっかり運動した」の項目について肯定的回答をする児童の割合を90%以上にする。	
<p>取組内容⑥【施策番号7 施策名 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康に関する指導、食に関する指導の充実を図る。</p>	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 月1回清潔検査を実施する。また、学期に1回「保健強調週間」を設け、健康な生活の習慣化を図る。 月1回発行する「食すこやか通信」や「給食だより」を活用したり、食に関する指導を年間2回以上実施したりして、児童の食への関心を高める。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①今年度は緊急事態対応という状況もあり、ペアトーク等は感染防止観点から取り組みにくい環境ではあったが、国語や道徳、他教科、学級活動などで話し合い活動や考えを表現できる機会を設けた結果、自分の考えを表現できるようになってきた。また、聞くことに関する取り組みでは、終わりの会等でのスピーチ後の質問や感想を言わせるなどの活動を続けることで自分の意見を持ち発表することができるようになってきている。

②どの学年でも計画にそって習熟度別少人数授業を進めてきた。2回目の基礎学力定着テストを実施し、正答率が80%未満の児童を減少させることができた。

③週4回以上、積極的にデジタル教科書やタブレットなど、ICT機器を使用した授業を行い、理解の向上に努めてきた。音楽、理科、算数など高学年ではプログラミング学習にも取り組んできた。また、双方向通信Teamsの研修も実施してきた

④体育科の学習などで、走る活動を多く取り入れたことにより、50m走2回目の計測が1回目の記録を上回った児童が8割を超えた。

⑤学級遊びや長縄記録会への取り組みや担任の声掛け、雨天時の講堂開放などにより、進んで外で遊ぶ児童が増え、体力の向上につながっている。

⑥毎日清潔なハンカチ、はなかみを持参する児童や爪切りができる児童は増えてきている。毎月の清潔検査だけでは十分ではないので、日ごろから声を掛けている。給食だよりや食に関する授業などの取り組みにより、食への関心が高まりつつある。

次年度への改善点

①「聞くこと」については、実態に応じてより工夫をした取り組みを継続指導していく必要がある。

②時間確保が厳しいため、朝の時間等を有効活用していく必要がある。

③プログラミングを実施している学年もあるが、タブレット等の使用が十分ではないので、計画通りに実施できるよう、取り組む必要がある。また、効果的なタブレットの使い方の研修をしていく必要がある。

④11月に体力テストを実施したが、来年度は春に実施予定。今後も体育の授業等で走る活動を積極的に取り入れていくことで走る力を高めていく。

⑤基本的には外でよく遊ぶ児童が多いが、学級・学年によって差があるため、状況に応じた体を動かせる環境や活動を検討していく。

⑥各家庭への啓発を含め、健康な生活を意識するよう指導を続ける。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	現在、暴力行為は認められない。児童は、落ち着いた学習環境のもと、安心・安全に学校生活を送ることができている。
② いじめの状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのアンケートを各学期に実施するほか、日々児童の様子を観察し、いじめの発生をくい止めるよう心がけている。また、把握した事案については、確実に聞き取り調査を行い、早期解決に向けて全教職員共通理解のもと取り組んでいる。 ・道徳の時間、やさしさウィーク、マナーアップウィークで、「思いやりの心」「自他の相違を認め合う心」を養い、いろいろな教育活動の場で指導している。
③ 小学校における不登校の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席児童について、毎月の職員会議の中で共通理解する場を設け、解決に向けての方策を検討している。また、関係諸機関と連携しながら解決に向けて取り組んでいる。